情報活用能力育成のための指導事例【小学校　第１学年　算数】

<table>
<tr><td colspan="2">単元・題材名</td><td colspan="2">たしざん　　指導時間（本時）　1／12</td></tr>
<tr><td rowspan="2">本時の目標</td><td>教科・科目</td><td colspan="2">・　たしざんの仕方が分かるようになる。</td></tr>
<tr><td>情報教育
（3観点8要素）</td><td colspan="2">［実践］■課題や目的に応じた情報手段の適切な活用
・　身の回りの情報機器の操作方法を知る。（モA11-1-010）
■受け手の状況などを踏まえた発信・伝達
・　みんなの前でしっかりと話すことができる。（モA42-1）</td></tr>
<tr><td colspan="2">活用する主な
ICT機器等</td><td colspan="2">■コンピュータ　■実物投影機（教材提示装置，書画カメラ）　■デジタルテレビ
■ソフトウェア（プレゼンテーション）</td></tr>
<tr><td colspan="2">本時の概要</td><td colspan="2">足し算の学習において，児童のブロックの操作を実物投影機で拡大提示し，理解を深めさせるとともにICTに慣れ親しませ，基本的な操作を身に付けさせる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">本時の流れ</td><td>主な学習活動</td><td>ICT活用の工夫及び留意点等
（○：教員の活用，◎：児童生徒の活用）</td></tr>
<tr><td rowspan="3"></td><td>導入</td><td>１　前時の復習をする。

２　本時のめあてを確認する。
どんなときにたしざんをつかうのだろうか。</td><td>○　実物投影機を用いて，教科書の挿絵をデジタルテレビに拡大提示する。
※　児童の興味・関心を高める。
○　児童のノートを実物投影機で拡大提示し，ノートの取り方やまとめ方など，全体に指導する。
※　児童一人一人に課題を明確につかませる。</td></tr>
<tr><td>展開</td><td>３　問題に合わせて，声に出しながらブロックを操作する。
・　デジタルテレビでの操作を見ながら
【一斉】→【個別】
４　絵を見てお話を考え，ブロックの操作で確認をする。</td><td>○　自作のプレゼンテーション教材を提示しながら，操作活動を行わせる。
※　視覚に訴えることで，分かりやすい説明になり，児童の思考や理解を深める。

◎　上手にブロックを操作している児童の様子（手の動き）を実物投影機でデジタルテレビに拡大提示させる。
※　実物投影機の基本的な操作を身に付けさせるとともに，ブロックの操作を全体に促す機会にする。</td></tr>
<tr><td>終末</td><td>５　本時のまとめをする。
６　次時の予告を聞く。</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">使用した
教材・資料
（コンテンツ）</td><td colspan="2">○名称・出典・内容など
・　自作教材（プレゼンテーションソフト）
<内容>加法におけるブロックの動きを再現したものである。</td></tr>
<tr><td colspan="2">ICT活用の
指導上のポイント</td><td colspan="2">・　小学校の低学年の段階では，ICTに慣れ親しませることから始め，各教科等の学習活動の中で児童に積極的にICTを活用させるなどして，基本的な操作を確実に身に付けられるように段階的に指導していく。</td></tr>
<tr><td colspan="2">備考</td><td colspan="2">○ICT活用に関して日頃から気を付けていることなど
・　低学年には，視覚から動作化をスムーズに行えるように，自作のプレゼンテーション教材等を活用している。
・　ICT機器を活用した授業において，児童が受動的にならないよう，具体物や半具体物を用いながらの操作活動も並行して取り入れるようにしている。</td></tr>
</table>

【本時の目標における情報教育（３観点８要素）の略記について】

「情報活用の実践力」→［実践］，「情報の科学的な理解」→［理解］，「情報社会に参画する態度」→［態度］

「情報活用能力育成モデルカリキュラム」の対応番号→モ番号